

地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業を活用した事例  
(H22経営体育成交付金)

補助対象者名称：緒方 宏平  
事業実施主体名称：福岡県久留米市  
内 容：パイプハウス 22棟 (5,742㎡)  
事 業 費：31,968千円 (国費：4,000千円)

1 事業取組前の状況

(1) 補助対象者の経営状況 (就農前の状況と就農したきっかけ)

補助対象者は大学卒業後、銀行に1年間勤務したが、以前から意中に抱いていた「経営者としての成功」の実現のため、農業経営に取り組むこととした。

就農を選択した理由は、幼い頃に行った祖父の稲作の手伝いの楽しかった記憶や、農業経営を行っている知人から農業の話や、農業の持つ可能性、面白さに興味を持ったためとしている。

<就農計画 (目標：25年)>

農業従事者：3人  
雇 用：3人  
経営面積：借入地90a  
経営内容：小松菜90a

(2) その他

福岡県久留米市北野地区は筑後川に育まれた肥沃な土壌と豊潤な水資源に恵まれ、ほ場整備もほぼ完了した地区である。恵まれた条件の下、小松菜、水菜など軟弱野菜を中心とした農業生産に取り組まれている。

生産性、収益性の高い農業の実現のため、効率的・安定的な農業経営の育成、高収益型複合農業を推進しているが、農業従事者の高齢化が進

んでおり、次世代の地域リーダーとなる中核的農家の育成及び後継者の確保、新規就農者の育成が重要となっている。

2 取組の概要

補助対象者は平成22年3月で銀行を退職、退職の翌日には普及センターに就農について相談するなど就農に向けて積極的に行動している。また、農業の経験がない補助対象者は、農業経営の開始準備として、知り合いの小松菜生産農家の下で半年間研修した。その後、研修で学んだ小松菜栽培を行うため、祖父から借りた農地に経営体育成交付金でパイプハウスを整備した。経営には両親も従事し、臨時雇用者3名でハウス22棟による生産を開始した。

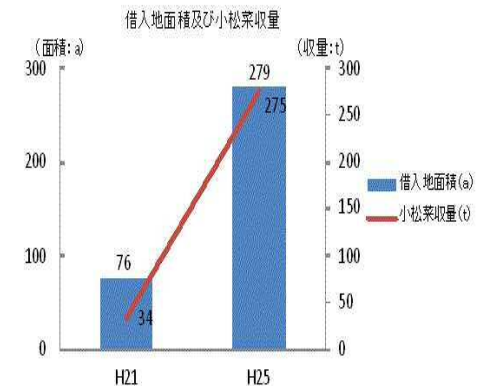
3 経営改善の効果

パイプハウスの整備に補助事業を活用することで負担軽減が図られ、その後の計画的な規模拡大に繋がった。

補助対象者は「人には負けない」「きれいに作る」を心がけ、意欲的にかつ着実に農業経営に取り組み、平成23年には10棟、平成24年には16棟を新たに整備、平成25年にはパイプハウス48棟、13,710㎡の規模で小松菜生産を行っており、両親のほか9人の雇用により労働力を確保している。

<規模拡大の状況>

	H22	H25
借入地面積	76a	279a
小松菜収量	34t	275t



#### 4 成功の要因

補助対象者は、人生設計を踏まえた農業経営を計画し取り組んでおり、将来的な子供の養育費等、生涯において必要となる経費も含めた計画的な投資設計により、負担の少ない計画的な経営投資を心がけている。

また、補助対象者は、小松菜部会等周りの指導、協力がなければ、現在の経営は不可能だったとしているが、補助対象者の「人には負けない」「きれいに作る」という農業に対する熱心な気持ちが、周りの協力を結びつき、現在の経営の確立に至っているものと考えられる。

#### <その他の波及効果>

経営の規模拡大により9人の雇用創出に結びついているほか、補助対象者の意欲的な取組みは、久留米市主催の青年就農給付金受給者研修会における視察の受け入れや、その講師を務める等、地域の農業全体の活性化に寄与している。

地域における農業の活性化は、将来的な地域の担い手の確保や農地の集積・有効利用にも効果が期待される。

#### 5 今後の経営改善の方向

今後は更なる規模拡大と売り上げ増加を図りたいとしているが、そのためには従業員確保や経営知識の習得に努めることが必要と考えており、雇用安定のための法人化の検討や、専門家による経営分析とこれを踏まえた経営内容の改善、安定的な生産のための定期的な土壌分析、管理にも取り組みたいとの意向である。



【導入したパイプハウス】



【小松菜と緒方さん】